

令和7年11月12日（水曜日）

日田市立東有田中学校 岩崎 あかね先生の授業です。

授業の単元は、第2学年「図形の性質と合同」。多角形の外角の和について、外角とその和の意味を理解し、多角形の内角の和などに基づいてその和が 360° になることを考察する場面です。

導入では、前時で生徒が作成した教具（図1）を基に、多角形の外角を平行移動して集めることから、「多角形の外角の和は 360° になりそうだ」という見通しを立てるなどし、生徒が主体的に取り組むことができるような工夫がなされていました。

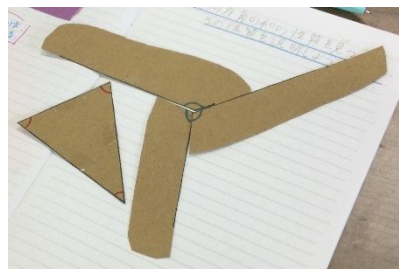


図1

また、生徒の思考が停滞した際には、問題解決のためのヒントとして前時の板書写真を大型モニターに示すなど、「努力を要する状況」にある生徒への手立てとしてしていました。

生徒が多角形の外角の和が 360° であることを説明する場面では、説明を聞いていた生徒から説明をした生徒に対して、「どのような性質を使いましたか？」といった質問が出されるなど、生徒同士で理解を深めていく様子が見られました。

事後研では、生徒が説明に向けた見通しを立てることができるよう、三角形や四角形などの外角の和を求めるなど帰納的に考えることから、一般化につなげるといった展開もあり得ること、また、単元など内容や時間のまとまりを見通すなどし、本時のような活動を後の証明の学習につなげることができるよう配慮する必要性があることなどについて確認しました。その際、真剣な眼差しで自身を高めようという姿勢が岩崎先生から感じられました。

ぜひ、これからも教具の工夫や「努力を要する状況」にある生徒への手立てを基に、全ての生徒が意欲的に取り組める授業を行ってほしいと思います。

